

審判員派遣報告書

1	派遣事業名	四国大学総体	2	派遣期日	平成28年6月24日(土) 25日(日)
3	報告者名	菅 由佳里 (クラブ連)	4	派遣先	アミノバリューホール
5	大会概要 および 大会結果				
	大会名称	四国大学総体	大会期間	216.6.24～25	
	大会内容	大学の四国総体である。 各県男女とも大学のチームが集まり、トーナメントを行い、勝ち上がったチームが2日目に準決勝、決勝を行う。男子は松山大学、女子は四国大学が優勝した。 運営面においては徳島の上級審判員やブロック講習生が集まった。 コート外では試合を見て勉強しお互いを高めあいよい刺激となった。			
6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム 雑 感
1	6月24日 (土)	女子:愛媛大学VS高知工科大学	R	山田佳奈(愛媛)	両チーム選手のサイズも似ていてよく走るチームである。愛媛大学が全員で走り守り、速攻もよく出たゲームだった。試合開始から流れは変わらずシュートを決め勝利をおさめた
2	6月25日 (日)	女子:愛媛大学VS四国大学	R	高橋瑞紀(愛媛)	両チーム選手のサイズも似ていてよく守りDEFを頑張るチームである。試合終盤まで勝負が分からなかったが、四国大学がDEFの粘りから確実にシュートを決め勝利をおさめた
7	審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関すること、全体の感想および提言等				
<p>< ミーティング内容 ></p> <p>・リードの動き方について 四国総体からの課題であったので意識して取り組んだが、ドライブと一緒に中に入ってしまうケースがあった。自身でも「開いておけばよかった」と試合中に感じることもあったのでステイすることの大切さといよいよポジションの位置をもとめて動くべきだと感じた。四国総体での反省であった、ミーティングの際に言葉だけを聞いて どの場合に開くとか どの場合の時にできていなかったか 起こっていることと指導していただいた言葉が繋がっていなかったこと、自分自身に動きに迷いや不安があったこと、動きに理由が持ていなかったことについて、自身の一番の課題だと思うのでもう一度ミニ国体に向けてもう一度勉強し修正していきたい。</p> <p>・ファールの一貫性について 飛び込みリバウンドの際にファールと判定するのか、バイオレーションとするのかしっかり見極めることの大切さを感じた。影響があるのかどうをしっかり見たうえで判定することと、相手レフリーとのコミュニケーションも必要だと思った。 ・ゲームの始まりの基準について シリンダーをおかしているものも多かったので1つずつ確実に判定をしていくこと。ゲームの始まりに基準を作ることやプレイヤーやベンチに示すことを確実にしていき自分自身の力にしていくこと。どんなゲームでも大切になっていくこと。これからの自身には今以上に日々の努力や習慣づけていかなければならないこともたくさんあります。チャレンジもたくさんしていこうとも思います。自身に足りないところもなくしていきたいです。特にリードの動きが課題だと思っているのでこれからコートの中や、DVDを見たりしてもう一度勉強していきたいです。また何が起ころうとも自信をもって対応できるようにもう一度ルールブックを読みかえそうとおもいます。この経験を還元できるように自信と謙虚さと感謝の気持ちをもちこれからも活動していきたいと思ひます。また恵まれたことに香川県には指導してくれる方がたくさんいるのでこの環境を当たり前と思わず日々感謝をして活動していきます。最後になりましたが今回四国大学総体に派遣していただき本当にありがとうございました。ミニ国体に向け、必ずA級になるようコート内コート外でも努力します。今後ともご指導よろしくお願い致します。</p>					